



## 《将来に向けた取組方針》

近年大きく変化している社会環境、事業環境を踏まえ、2019年に「JTグループ環境計画2030」を策定し、自然資源を計画の軸となる重要な取り組み領域に決めました。そのうち森林資源について、サプライチェーンにおける木材資源の持続的供給を確保し、森林保護・保全への更なる貢献を掲げています。具体的には、持続可能な森林管理を強化するため、2020年までに海外葉たばこ生産地における森林破壊・劣化の要因を特定し、木材資源利用の改善、森林保護・保全に向けたアクションプランを作成します。また、2030年までに、直接契約葉たばこ農家が葉たばこ乾燥工程で使用する自然林由来の木材を全て、再生可能な燃料源に転換します。

### 《具体的取組み事例》

- ・燃焼効率の高いマトペ乾燥室を開発し、葉たばこの乾燥における木材消費量および二酸化炭素排出量の削減に成功しました。
- ・現在マラウイでは、樹木をそのまま乾燥施設として使用する「ライブ・バーン」の設置を通じて、葉たばこ乾燥室建設のために伐採される樹木の数を減らしています。



### 学んだこと・成果等

- ・マトペ乾燥室を使うことで、木材消費を75%、二酸化炭素の排出量を12%削減できます。
- ・2018年には、ザンビアの葉たばこ農家にて、マトペ乾燥室を1300か所以上設置しました。

### 《今後の課題等》

- ・葉たばこ生産の乾燥工程を木材に依存している国では、森林資源の管理と効率的な使用を図りつつ、環境保全に貢献することが不可欠であると考えています。
- ・日本国内では「JTの森」を環境社会課題のテーマとして掲げ、中期的な取り組みを検討しています。

### 《社会に向けたメッセージ》

健全かつ持続可能で豊かな環境が将来の世代に引き継がれるよう、社会及びJTグループのバリューチェーンにおける環境課題に取り組み、企業活動と環境の調和を実現していきます。